

令和6年度

木屋平小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数学級での指導を工夫し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
- 主体的に学習に取り組み、児童同士のコミュニケーション力を育成する。

学力向上検討委員会構成

- |          |    |                        |
|----------|----|------------------------|
| 学力向上推進員  | 委員 | 重本 哲也(校長)              |
| 杉浦 舞(1年) |    | 岡島凜太郎(3・4年) 福田 彪(5・6年) |
|          |    | 大櫛 未歩(養護助教諭)           |

校長

重本 哲也

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や経営方針を常に意識し、確認できる環境づくりによって取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや基本的な四則計算など、各学年の知識・技能はある程度定着が見られる。 ●既習漢字を書いたり、知識を関連付けたり技能を組み合わせたりする応用力に課題がある。語彙が少なく、正しく読み解く力や説明する力も低い。	・各学年で習う漢字や計算など、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・習得した知識や技能を学習課題や日常生活に活用できる。 ・文章を正しく読み、内容を正しく理解することができる。	・朝の活動の時間に週2回は漢字や計算の反復練習を行う。 ・月1回個に応じた確認テスト「こやだいラーニング」を行う。 ・主語述語の関係に気を付けて読んだり、分かっていることに線を引いたり、読み方の練習を各教科で繰り返し行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○くり返し使った表現方法や簡単な言葉で自分の考えを伝えたり、気持ちを表現したりすることはできる。 ●学習に必要な情報を探したり、考えをまとめたりすることに課題がある。また、相手の話を正しく聞く力が低い。	・図書やICTを使って、必要な情報を探したり得たりすることができる。 ・探した情報が必要かどうか判断し、それを基に自分の考えや思いを表現することができる。 ・相手の話を最後まで聞き、正しく理解できる。	・NIEの取組を通して、発達段階に応じたよりの確かな判断のもと情報活用し、表現できる方法を指導する。 ・教師と児童全員で交換日記(こやダイアリー)を行い、表現力を培う。 ・他校との交流を通して、相手の話を聞く力や自分の考えや思いを伝える力を育む。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○様々なことに興味・関心を持ち、進んで活動することができる。学習態度も落ち着いている。 ●学びを積極的に活用することに課題がある。また、家庭学習が定着していない児童もいる。	・課題や自主学習にめあてをもって取り組むことができる。 ・各教科で学習したことを関連付けて、課題を解決することができる。 ・基本的な生活習慣を身に付け、自学の習慣を身に付けることができる。	・毎時間授業のめあてを提示し、学びの方向性を示す。 ・各学年に応じた振り返りの視点を示し、記号や記述により振り返らせる。 ・「家庭学習の友」を活用し、学年×10分程度の家庭学習の定着を図り、月に1回振り返り意識付けをする。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

